

はっほみちえ
発保道江の

三光亭 四鑑

真夏の帽子



太陽がまぶしくて…

日射しが強いから かぶるけど
帽子の中はムレムレ、髪の毛ベっとり…
—…ぬいでも暑い…。



全障研用語解説 四、レポート —を書く。 —を討議する。

蘭部英夫
(全障研副委員長)

レポート (report) は「re (二重へ)」と「port (運ぶ)」が合わさった言葉で、「運び戻す」というような意味合いから「報告」となりました。学生が課題として提出する「レポート」に相当する英語は「paper」または「term paper」だそうです。障害者権利条約の批准国が国連に提出義務のある締約国報告は「カントリーレポート」と言われます。

満や要望、意見など自分の身のまわりのできごとでも大切なレポートとして討議してきました。みんな話しあうなかで権利保障の道すじは明らかになっていくのです。レポート作成にむけては、一つひとつの事実がどういう意味をもっているのかなど、集団で話しあいながらとりくみの成果や課題などをまとめていきます。

日々のとりくみのレポートが、なんでも受けとめられ、優しく厳しくもある分科会集団による討議のなかでぐんと深まる時、なんとも言えないエネルギーがわいてきます。そしてまた次のとりくみに発展していくのです。



▲全障研全国大会の分科会